

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学品の名称 (製品名)	サンプルバッファ
製造元	
会社名	BioFire Diagnostics, LLC
住所	515 Colorow Drive - Salt Lake City, Utah 84108, USA
電話番号	(800) 735-6544 又は (801) 736-6354
会社名 (供給者)	バイオメリュー・ジャパン株式会社
住所	〒107-0052 東京都港区赤坂二丁目 17 番 7 号赤坂溜池タワー2 階
電話番号	03-6834-2666
緊急時の電話番号	03-6834-2718
FAX 番号	03-6834-2667
Website	http://www.biomerieux.co.jp/
推奨用途及び使用上の制限	診断用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的・化学的危険性	GHS 分類基準に該当しない。	
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分 4
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分 1
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分 1

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

危険

H302: 飲み込むと有害

H315: 皮膚刺激

H318: 重篤な眼の損傷

H400: 水生生物に非常に強い毒性

H410: 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

応急措置

P273: 環境への放出を避けること。

P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

P391: 漏出物を回収すること。

P332+P313: 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。

P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P301+P312: 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師/中毒センターに連絡すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性 P337+P313：眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
知見なし

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲(%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
塩酸グアニジン	50-<60	50-01-1	(1)-215,(2)-1773	—
Triton X100	10-<20	9002-93-1	—	—
その他の成分	30-<40	—	—	—

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸が困難な時は酸素が必要になることがある。症状が悪化したり継続したりする場合は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚に少量付着した場合、影響を受けていない皮膚に物質が広がるのを防止すること。刺激が強くなる場合、又は続く場合には医師の手当てを受けること。
眼に入った場合	直ちに多量の流水で 15 分以上眼を洗浄すること。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。刺激が強くなる場合、又は続く場合には医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	直ちに医師／中毒センターに連絡すること。口をすすぐこと。中毒センター等からの指示なしに無理に吐かせないこと。もし嘔吐が起これば、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候 症状	重度の眼刺激。症状には、刺すような痛み、流涙、充血、腫れ及び眼のかすみなどがある。失明を含む恒久的な眼の損傷が生じる可能性がある。皮膚刺激性。発赤や痛みを起すことがある。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項 医師に対する特別な注意事項	この安全データシートを担当医に見せること。 症状は遅れて現れることがある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火剤。泡消火剤。
使ってはならない消火剤	火災を拡散することになるため、水噴射は使用しないこと。
火災時の特有の危険有害性	火災の際は有害なガスが発生することがある。
特有の消化方法	危険でなければ、火災区域から容器を移動させること。
消化活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	火災の際は自給式呼吸器と完全保護服を着用すること。
一般的な火災の危険性	異常火災や爆発の危険性は知られていない。
特定の消化方法	通常の消火手順を用いること。影響を受けた他の物質の有害性を考慮すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止すること。清掃中は適切な保護具および防護服を着用すること。適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器又は漏出
-----------------------	--

環境に対する注意事項	物に触らないこと。十分な換気を確保すること。ミスト／蒸気の吸入を避けること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	環境への漏出を避けること。安全を確認してから、漏出を止めること。下水や水路、地表に排出しないこと。 リスクを伴わないのであれば、物質の漏出をせき止めること。製品を排水施設に流してはならない。可能な場合は漏出物をせき止めること。製品回収後、その付近を水で洗い流すこと。 絶対に漏出物を元の容器に回収して再使用してはならない。パーミキュライト、砂、土などの不燃性物質を用いて容器に回収し、後で廃棄すること。 大量の漏出：パーミキュライト、乾いた砂又は土に吸収し、容器に回収すること。 少量の漏出：残留汚染を除去のため、床を徹底的に清掃すること。布、フリスなどの吸着素材で拭き取ること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	安全取扱注意事項	眼、皮膚への接触を避けること。使用中は飲食や喫煙をしないこと。
保管	安全な容器包装材料	元の容器に密閉して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度（ばく露限界値）および管理濃度 設備対策	含有成分に関してばく露限界は設定されていない。 適切な全体換気（換気回数 1 時間に 10 回程度）を行わなければならない。換気回数は状況に合わせてのこと。ばく露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空气中濃度をばく露限界値以下に保つこと。ばく露限界値が設定されていない場合も、空气中の濃度を適切な濃度以下に抑えること。この製品は、洗眼設備および緊急用シャワーがあるところで扱わなければならない。	
保護具	呼吸用保護具 手の保護具 眼／顔面の保護具 皮膚及び身体の保護具	通常、呼吸用保護具は必要ない。 保護手袋を着用すること。ニトリル製保護手袋。 眼に入らないようにすること。フェイスシールドが望ましい。サイドシールドのついた安全眼鏡（又はゴーグル）を着用すること。洗眼装置の使用を推奨する。 皮膚との接触を避けること。適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理状態	液体
	色	無色透明～殆ど無色
臭い		データなし
pH		データなし
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし
可燃性（固体・ガス）		該当しない
爆発下限界及び爆発上限界 ／可燃限界	爆発下限界 （％） 爆発上限界 （％）	データなし データなし
引火点		データなし

自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	液体のため該当しない

10. 安定性及び反応性

反応性	本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定かつ非反応性である。
化学的安定性	通常の条件下では安定である。
危険有害反応可能性	一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	混触危険物質との接触。
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

急性毒性	飲み込むと有害。
皮膚腐食性／刺激性	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	強い眼刺激のリスクあり。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性物質でない。 皮膚感作性はないと推測される。
生殖細胞変異原性	本製品あるいは製品中に 0.1% 以上含有する成分に変異原性又は遺伝子毒性があることを示すデータはない。
発がん性	データなし
生殖毒性	この製品は、生殖影響又は発達影響を引き起こすとは予測されない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類基準に該当しない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類基準に該当しない。
誤えん有害性	誤えん有害性はない。

12. 環境影響情報

製品	種	試験結果
サンプルバッファー		
水生		
魚類	LC50 魚類	401.3714 mg/L, 96 時間（推定）
成分	種	試験結果
Triton X100 (CAS 9002-93-1)		
水生		
魚類	LC50 ブルーギル (レポミス・マクロキルス)	2.8 - 3.2 mg/L, 96 時間

生態毒性	長期継続的影響によって水生生物に有害。
残留性・分解性	この製品の分解性についてのデータはない。
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	地域の規定に従い、処分すること。空の容器やライナーには製品の残余物が残っている可能性がある。製品とその容器は安全な方法で廃棄すること。
汚染容器及び包装	製品の残余物が残っている可能性があるため、容器が空になった後もラベルの警告に従うこと。空の容器のリサイクル又は廃棄する場合には、認可を受けた廃棄物処理施設に受け渡すこと。
地域の廃棄規制	廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託すること。製品を上下水路に漏出させてはならない。内容物とその容器は地域／地方／国／国際規制に従って廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	陸上規制情報	ADR/RID：危険物には該当しない。
	海上規制情報	IMDG：危険物には該当しない。
	航空規制情報	IATA：危険物には該当しない。
国内規制	陸上規制情報	規制なし
	海上規制情報	規制なし
	航空規制情報	規制なし

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法（化管法）	第1種指定化学物質（政令番号：1-408）：Triton X100
--------------------	-----------------------------------

16. その他の情報

参考文献	NITE GHS 分類公表データ BioFire Diagnostics, LLC 製品 SDS（2020-04-06） JIS Z 7253:2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS） 記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものです。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。
------	--